

川と阿波踊りに支えられた都市

徳島は四国で 2 番目に長い吉野川の下流域の砂州に築かれた城下町として始まりました。現在の地名の多くは、周囲を川に囲まれていることから「島 (island)」という言葉が使われています。福島、寺島、住吉島などがその例です。川を水路にして物資を運ぶことで商人が栄えました。

1889 年に徳島が正式に市制施行されたときには、全国で 10 番目に大きい都市でした。この地域は藍の栽培に適していました。藍染め産業が繁栄するにつれて、それは都市の経済発展を支援するのに役立ちました。

徳島の人々は、江戸時代(1603–1868)初期から盆踊り（夏の民衆踊り）を踊ってきました。藩当局は、住民が特定の近隣地域でのみ踊ることができるように厳しい規制を課しました。街頭に集合していたため、警察署の許可を得る必要があり、現在でもその状況は続いています。

1928 年に徳島商工会議所が踊りの協賛を始め、観光地として瞬く間に成長しました。この頃から、夏の風物詩である「盆踊り」が、季節を問わずイベントや祝いの場所で踊られるようになったことから、「阿波踊り」という言葉が使われるようになりました。阿波は徳島の旧称です。1946 年には「阿波踊り」という名称が正式なものとなり、復興して全国に広まっていきました。